

平成 29 年度 学校自己評価に関する第三者評価について

(1) 平成 29 年度 学校自己評価に関する第三者評価 まとめ

○H29 年度学校経営の重点目標の下記 3 点について

- 1) 生命科学類型の生徒に対する探究学習を先行実施し、それを全学年生徒に広めていく計画を立てる。

非常に評価できる 1名	評価できる 4名	普通 0名	あまり評価できない 0名	評価できない 0名
-------------	----------	-------	--------------	-----------

- 2) 大学入試改革への対応を図る。

非常に評価できる 1名	評価できる 2名	普通 1名	あまり評価できない 0名	評価できない 0名
-------------	----------	-------	--------------	-----------

※1 名回答なし

- 3) 広報活動、オープンハイスクール等を充実させる。

非常に評価できる 0名	評価できる 5名	普通 0名	あまり評価できない 0名	評価できない 0名
-------------	----------	-------	--------------	-----------

(2) 「平成 29 年度学校評価」 (集計結果) について

- 1) 「学校運営」に関して

①評価できる点

- ・学校経営の重点並びに各部の重点目標を、それぞれ教員がよく踏まえて一体となってその実現に励んでいる。
- ・生徒と温かい人間関係を築き、生徒の安全と自主・自立の精神を育てている。
- ・生徒の安全と個人情報の管理に配慮して教育活動にあたっているという自己評価が高い点。
- ・研究授業、公開授業の積極的な取り組みと、教科指導力の向上。
- ・全教職員が、教育目標を踏まえて生徒の教育にあたっておられることは高く評価できる。また、温かな人間関係を築く努力をされていることも評価できる。
- ・生徒との温かい人間関係の育成の努力、部活動などを通して達成感を得ることができるようにしていること。

②改善を要する点

- ・教育環境の範囲？学校教職員、生徒で対応できることと対応できないことがあると思いますが、自らできること、職員室や校舎を土足できないくらいに徹底的に美しくする。自らの職場を清掃、整理・整頓は日本人の物作りの原点です。他国では考えられない。
- ・施設、設備、システム面の整備が気になります。
- ・生徒指導において、個々の生徒に対して将来を見据えた適切な指導を行っているか。
- ・進学校の名だけでなく、先を見てランクの上下をしてでも、大学への特色など説明しているか。

- ・教育効果の向上には、まず教職員の力量である。評価アンケートを見ても常に指導力の向上、自らの資質向上に向かって進んでほしい。
- ・施設・設備面での教育環境があまりよくないようなので、予算にかかわることで難しい面もあるが、頑張ってもらいたい。
- ・指導力向上のための情報の共有化

2) 教育課程について

①評価できる点

- ・教育課程の見直しを行い、生徒個々の実態とニーズに応じた教育課程の編成に努めている。
- ・生命科学類型の充実を図り、その実施に取り組んでいる。
- ・学習意欲の高低を問わず、学習指導がいきとどいていると感じる。
- ・少人数制授業の取り組み。
- ・習熟度別授業や少人数授業など、様々な個性を生かす工夫がされていることは高く評価できる。
- ・習熟度別授業や少人数制授業など、個に応じた指導形態が出来ている。

②改善を要する点

- ・年間を通しての計画。
- ・生命科学類型の内容と方向が今ひとつわかりにくい。具体的に、明確に分かりやすくしてほしい。
- ・アクティブラーニングを導入するなど、さらに指導の在り方を工夫・改善されればなお良いと思う。
- ・2年生、3年生について、総合的な学習の時間の運営

3) 生徒の社会性・自主性の育成に関して

①評価できる点

- ・生徒の社会性・自主性の育成に努めている。部活動、ボランティア活動等社会と直接触れ合う活動の参加を促している。東日本大震災復興支援活動はその顕著なものである。
- ・ボランティアなどの参加。
- ・キャンパスカウンセリングの活用。
- ・阪神淡路大震災を経験していない世代の子どもたちのボランティア活動。個人的には宮城県出身であり、被災地をある程度知っているが、子どもたちに感謝です。
- ・地域とともにボランティア活動を展開されていることは高く評価できる。
- ・生徒自身の健康や安全に対する意識の育成。

②改善を要する点

- ・インクルーシブ教育での生徒の理解度。
- ・貴重な体験、経験を通じて得た数々の教育的効果を、具体的に学習の場で取り扱ってほしい。
- ・生徒の社会性・自主性を育てる面から、特別活動の在り方を工夫し、全教員が一丸となって取り組まれることを希望します。

- ・多文化共生社会に生きる生徒の育成。
- 4) 平成 29 年度の本校教育活動に関してのご意見
- ・県教育委員会は、2018年度から国際的に活躍できるグローバルリーダーを育成する「ひょうごスーパーハイスクール」制度をスタートさせるようである。初年度は10校を選定するとのこと。本校も是非選ばれて、大いに星陵高校の特色化を進めてほしい。
 - ・公開授業などの実施に対してホームページを改善し、研究風景や内容など動画として公開してもいいのではないのでしょうか？わざわざ遠方から足を運ばなくても、学校の取り組みが理解できるのが狙いですが。進学ばかりにとられる保護者が多く見受けられます。間違った情報、口コミなど大きくなならないうちに正しく理解できるようにしていかないと感じました。
 - ・設問23、24（23 自分にとって学校生活は充実している、24 星陵高校へ入学して良かったと思っている）で、1・2年生より3年生に「1」と回答しているのは、子どもが成長したことを意味するのではないかと考えます。教職員・生徒が目標を共有するまでには時間がかかるということですかね。教師の方の職務範囲の多様性、範囲に疑問を感じます。広すぎて多すぎるように思います。1クラスの人数が少ない為に、多数の教師が必要となり、教師不足の悪循環になっていることはないのでしょうか？
 - ・素晴らしい生徒ばかりの学校です。さらに教職員が一丸となって、共に取り組まれることをのぞみます。
 - ・年間2回という出席ですが、先生方が少ない時間の中で、様々な事に真剣に取り組まれているお姿を拝見しております。

(3) H30 年度学校経営の重点目標

- 1) 探究学習を1・2年生で実施し、全学年生徒に広めていく計画を立てる。
- 2) 授業研究を実施し、教員の授業力向上を図る。
- 3) 大学入試改革への対応を図る。
(探究学習、英語外部試験、JAPAN e-Portfolio 等)